

# 木更津でポルシェ感じて！

ポルシェジャパン（東京・港）は10月1日、千葉県木更津市に日本国内では初めての運転体験施設「ポルシェ・エクスペリエンスセンター（東京）」を開業した。飲食や会議スペースもあり、ポルシェ車の所有者や車好きにとどまらず、国内外から年間1万人以上を呼び込む。県や市は地域ブランドの向上など波及効果を期待する。

現地では記者会見を開いた



ポルシェジャパンは「ポルシェ通じ」命名を発表した

## 国内初の運転体験施設開業 交流活性化に期待

同社のミヒヤエル・キルシュ社長は施設沿いの市道125号線のうち1.5キロの区間を市とのネーミングライツ契約により同日から「ポルシェ通り」と命名したと明らかにした。契約期間は5年。同社は2020年11月、県、市との3者で産業・観光振興などを巡り協力していくとの覚書も結んだ。

施設内には8種類の多様な試乗用コースがあるが、このうち2・1キロの周回コースを選んだ



40台を超すポルシェ車から車種を選んで試乗できる

コースを11月に市民ら約1000人を集めて開く恒例のリレーマラソン「木更津ブルーベリーRUN」の会場として開放。「地域社会との関係も重視する」（キルシュ社長）。カフェやレストランのみの利用もでき、法人のパーティー需要も見込む。

世界で9番目の施設だが、地形を生かした高低差のあるコースは初めてという。施設内では30人以上が働き、運転を指導するインストラクターには50人が登録。スタッフや利用客らによる交流人口の拡大も見込まれる。

記者会見で田中幸子副社長は「世界的に知名度のあるポルシェ社の進出による地域経済活性化に期待している」と述べた。

許諾番号30084597

2021年10月02日付

©日本経済新聞社

日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

日本経済新聞 地方経済面 千葉

無断複製転載を禁じます。